

図1 管理基準値案 ( $\beta=0.8$ ) に、ABC の上限を 3000 トンとした場合の将来予測 (赤色) と現状の漁獲圧 (F2022-2024) で漁獲を続けた場合の将来予測 (緑色) 結果

太実線は平均値、網掛けはシミュレーション結果の 90% が含まれる予測区間、細線は 3 通りの将来予測の例示である。親魚量の図の緑破線は目標管理基準値案、黄一点鎖線は限界管理基準値案、赤点線は禁漁水準案を示す。漁獲量の図の黒破線は最大持続生産量 MSY を、漁獲割合の図の黒破線は目標管理基準値案を維持する漁獲割合の水準 (Umsy) を示す。2025 年の漁獲量は予測される資源量と現状の漁獲圧 (F2022-2024) により仮定した。

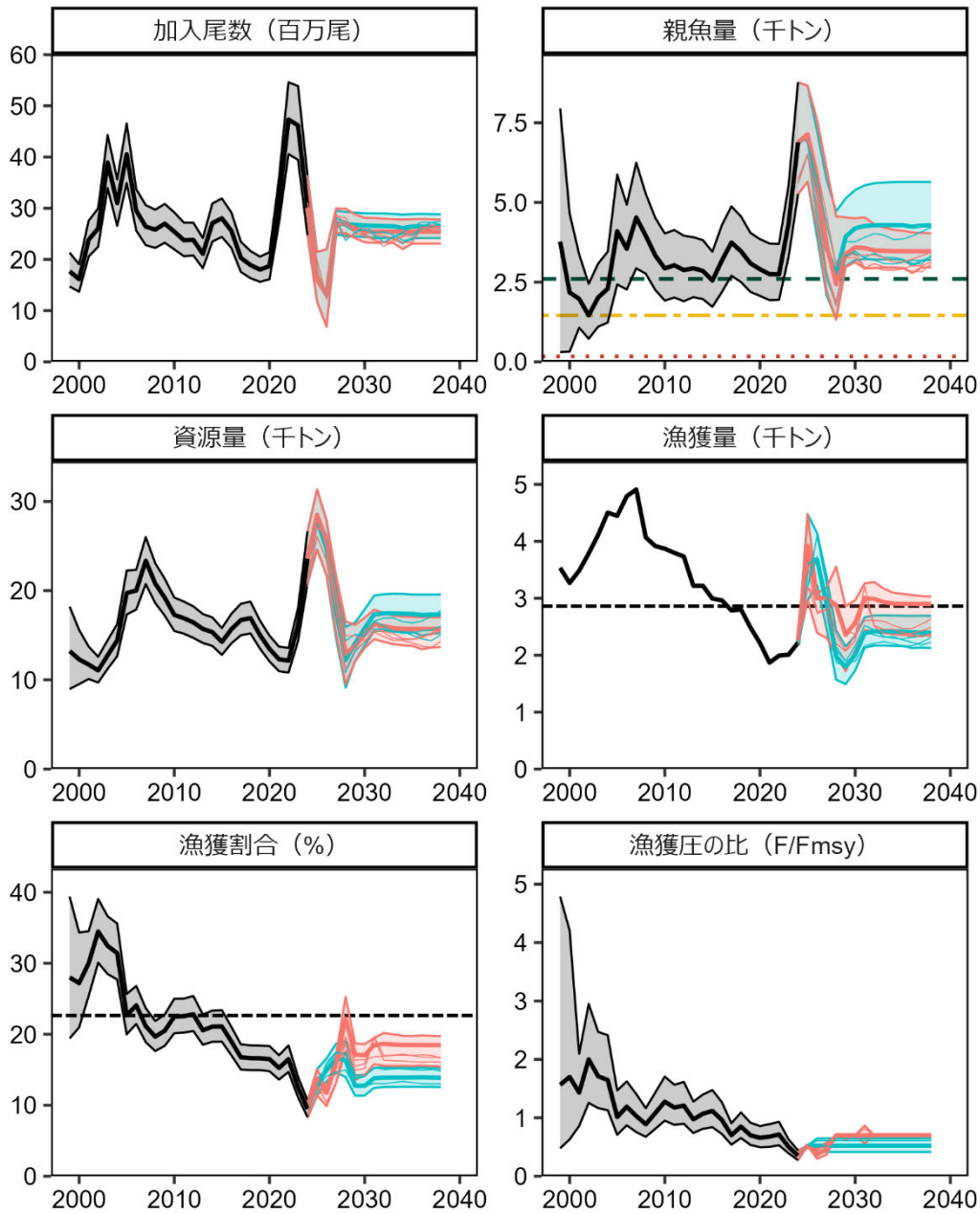


図2 調整係数 ( $\beta=0.7$ ) に、ABC の上限を 3000 トンとした場合の将来予測 (赤色) と現状の漁獲圧 ( $F_{2022-2024}$ ) で漁獲を続けた場合の将来予測 (緑色) 結果

太実線は平均値、網掛けはシミュレーション結果の 90% が含まれる予測区間、細線は 3 通りの将来予測の例示である。親魚量の図の緑破線は目標管理基準値案、黄一点鎖線は限界管理基準値案、赤点線は禁漁水準案を示す。漁獲量の図の黒破線は最大持続生産量 MSY を、漁獲割合の図の黒破線は目標管理基準値案を維持する漁獲割合の水準 ( $U_{msy}$ ) を示す。2025 年の漁獲量は予測される資源量と現状の漁獲圧 ( $F_{2022-2024}$ ) により仮定した。

(別紙)

事務連絡  
令和8年2月2日

国立研究開発法人水産研究・教育機構  
水産資源研究所 調査・評価部会長 上田祐司 様

水産庁漁場資源課沿岸資源班長

ズワイガニ日本海系群A海域の資源評価に関する試算等についてのお願い

ズワイガニ日本海系群A海域の資源評価について、以下の条件での試算及び水産庁主催の  
会合等における説明をお願いいたします。

令和7年度の資源評価結果に基づき、2026年以降の漁獲量は、3,000トンを上限として、  
それを下回る年は $\beta = 0.8$ 又は $0.7$ を漁獲管理規則に用いて算定される漁獲量とした場合の  
将来予測結果をそれぞれ示していただきたい。将来予測結果は令和7年度資源評価報告書に  
示された内容（特に、親魚量の平均値、漁獲量の平均値及び10年後に親魚量が目標管理基  
準値案を上回る確率等）を対象とする。

以 上